

インターンシップの新たな可能性

学生・企業・大学が協働した リモートインターンシップへの挑戦



CIAC

一般社団法人

産学協働人材育成コンソーシアム

Japan Consortium of Industry-Academia Collaboration in Human Resource Development

私たちの思い

設立構想

この国の最大のテーマは、産業界と教育界が広い視野で人材育成に取り組むことではないか、これが私たちの問題意識です。
一般社団法人産学協同人材育成コンソーシアム (CIAC:キアック) は、次世代の人材育成に関して、**産 (企業・地域・行政・経済団体等)** と **学 (高校・大学等)** の協働を強化するための場を創出します。
 地域の横断的課題等について産学で幅広く協働し、総論ではなく具体的な実践を通して、産学協働による人材育成と人材活用の継続的な発展・推進を設立の目的とします。

上位の概念
Mission, Value, Output

Mission

産学協働による人材育成・活用の継続的な推進・発展により、一人ひとりが生き生きと学び、活躍できる次世代社会の創造に貢献する。

Value

自分に自信、社会に信頼、将来に希望を持つ人材を育成する。
 地域社会の活性化に貢献する人材を育成する。
 普遍性の高い学ぶ力を持った人材を育成する。

Output

産学協働による人材育成・活用に関する課題に対し、総論ではなく実践を通して、解決につながる成果を創出し、社会に還元する。

私たちが
目指すこと
CIAC Way

1. 地域を担う企業とそこに人材を輩出する教育機関を対象とし、地域 (組織と人材) の活性化につながる取り組みを推進する。
2. 教育の質的向上、学生の成長に資するのみならず、地域、企業の人材育成・活用に貢献できる取り組みを推進する。
3. 地域の連携組織をネットワーク化することで「面」としての基盤を整備し、個別では解決困難な課題を解決する仕組み (エコシステム) を構築する。
4. 産学協働による人材育成の意義についての理解を促進する取り組みを通して、社会的気運を高めていく。

私たちが
果たすべき機能
CIAC Function

地域を超えた全国型プラットフォームを構築することによって、多様なプログラム・取り組みを俯瞰し、先進事例・ノウハウ・課題の共有、コンサルティング、ノウハウ移転、情報交流、相互支援が可能となり、個別では困難な課題解決への方策が得られ、個別の取り組みが質的に向上・改善することによって、日本全体の質的向上をもたらす。

一般社団法人 産学協働 人材育成コンソーシアム

「主体性」「多様性」「協働性」によるネットワーク



役員紹介
Member Profile



代表理事
松高 政

京都産業大学経営学部准教授。産学協働の新しいかたちを目指し、民間企業から転身。新たなプログラムを学内外で実践。経産省・文科省のインターンシップ関連の委員も歴任。

挨拶

企業と大学はもっと一緒にあって、人を育てられないだろうか？これがCIACの純粋な思いです。「大学は社会で役に立つ人材を育てていない」という企業からの批判。「そもそも、大学は企業のために教育をしているのではない」という大学からの反論。未だによく聞きます。世の中は不平等です。大学も企業も足りないところがたくさんあります。そうであるなら、お互いに補い合っていければいいだけです。人材育成において、大学、企業ともたくさんの課題があります。その解決方法はあるいるあるでしょう。私たちは、今よりも、もっといいかたちで産と学が協働することで、その解決にチャレンジしていきます。



理事・事務局長
原 正紀

(株)クオリティ・オブ・ライフ代表取締役、経営者を本業に産学公1ダースの肩書を持つダイバーシティワーカー。高知大学客員教授・成城大学非常勤講師ほか複数の公的委員も務める。

挨拶

企業や大学を取り巻く環境は、大きなつねりの真つた中にあります。人口の減少、技術の革新、国際化の進展…これまで経験したことのない大きな環境変化の中で、この国の最大のテーマは「人材育成」と改めて強調したいと思います。それは学校がすること、企業がすること、公共がすること、というセクターの問題ではなく、それぞれが運動しながら最高水準のシステムを求めべきものと考えます。それを推進するためのコネクタ機能として立ち上げたのがCIACです。この国にある優れたリソースの協働により、世界最高水準の若者育成を目指すという、大きな志で活動を進めていきたいと思います。



理事
川島 啓二

京都産業大学共通教育推進機構教授・学長特命補佐・初年次教育センター長。高等教育論を専門に大学と社会の未来枠組みを見据える。文部科学省国立教育政策研究科所長。



理事
西條 秀俊

新潟大学教育・学生支援機構キャリアセンター副センター長、Japan-APT理事、企業で人材育成に取り組み後、1級キャリアコンサルティング技能士資格を活かし学生のキャリア支援に携わる。



理事
豊田 義博

人と組織の研究者。中核テーマは20代キャリア。リクルートワークス研究所 特任研究員、ライフフロント・ジャパン (株) 取締役CRO、セミナー研究会主宰ほか。



理事
深澤 晶久

実践女子大学文学部教授 (全学キャリア教育担当)、元 (株) 資生堂人事部長、東京2020組織委員会文化教育委員、女子大学を中心に企業経験を活かしたキャリア教育に懸ける。



理事
三橋 明弘

旭化成株式会社 人事部 人財・組織開発部長、2級キャリアコンサルティング技能士、高知大学客員教授。学校と企業が連携・連携した人材教育を目指している。



監事
大川 哲郎

本業を通じた社会課題解決に取り組む (株) 大川印刷 代表取締役社長。2018年第2回ジャパンSDGsアワード SDGsパートナーシップ賞受賞。

6月 8日:第1回プロジェクト・ミーティング

6月29日:参加大学の募集開始

7月10日:募集締切

参加するにあたってお願いした点

- 1大学あたりの参加学生は5名程度
- 参加企業1社と共に参加すること
- 自大学の学生、企業については、当該大学が責任を持って対応すること
- 教職員は、全プログラムに参加し、フィードバック等の役割を担うこと
- 大学としての(組織として正式な)参加でなくて構わない。正課・正課外も問わない

一緒に汗をかき、学生、企業(社員)、大学(教職員)全員で作り上げる

17大学(61名)

東北福祉大学
北翔大学
鶴見大学
大手前大学
尾道市立大学
下関市立大学
デジタルハリウッド大学
愛知みずほ大学
京都産業大学
山野美容芸術短期大学
東北学院大学
埼玉女子短期大学
新潟大学
広島文教大学
湘北短期大学
横浜市立大学
福岡工業大学

15企業

株式会社ハミングバード・インターナショナル
株式会社マツオ
株式会社エイジェック
株式会社アイテム
株式会社カスタム
株式会社松岡
株式会社ティ・ジョイ
株式会社美里花き流通グループ
ワタキューセイモア株式会社
株式会社八芳園
株式会社WAO STYLE
株式会社スティーブアスタリスク
株式会社ストライプインターナショナル
株式会社ホクエツ信越
リコージャパン株式会社

- ◆企業と大学が、きちんと協働して実施する教育プログラムであること(結果として採用につながることは構わない)
- ◆企業(社員)、大学(学生)、それぞれにメリットをもたらすこと
- ◆インターンシップとして重要なキャリア教育(キャリア形成)の要素を含んでいること
- ◆リモートであることのメリットを最大限に活かすこと
- ◆「インターンシップコーディネーター」が関わることで、最大限の教育的効果をもたらすこと

【学生】

- ◆「リモートワーク」という働き方を体験的に理解し、自らの働き方を吟味する
- ◆他大学の学生と接することで価値観、視野、選択肢を広げる
- ◆所属大学では得られない企業、業種での経験が得られる
- ◆進路選択の土台となる生き方、働き方について考える

【社員】

◆今後のキャリアを形成するための生き方、働き方について考える

◆自社、自身の業務を客観的に捉える(メタ認知)

◆リモートによるコミュニケーションのポイントを理解する

◆リモートによる課題遂行のポイントを理解する

【企業】

◆これまで接することがなかった属性の学生と接することができる

◆大学と協働することで新たなプログラムを構築、改善するヒントを得られる

◆社員研修の要素が含まれるため人材育成につながる

◆大学教職員から本音でのフィードバックが得られる

【大学】

◆学生にインターンシップ参加の機会を提供できる

◆今後の新たなプログラム構築のヒントを得られる

◆これまで接することがなかった企業との接点ができる

◆他大学とのネットワークが広がる

実施段階

6月 8日:第1回プロジェクト・ミーティング

6月29日:参加大学の募集開始

7月10日:募集締切



8月20日:社員対象【事前オリエンテーション(研修)】

8月29日:学生対象【事前学習】

9月2日～10日:3日間の【就業実習】

9月12日:学生対象【事後学習】

9月15日:社員対象【フォローアップ(研修)】

上手くいった最大の要因

インターンシップコーディネーター
(インターンシップ専門人材)
と共に取り組めたから



CIAC 認定

インターンシップコーディネーター

他社の社員とのグループワークを中心に、

- **今回参加した理由、目的**
- **就業実習中の課題概要、目的、狙い**
- **学生への企業説明の現状と認識**

「学生が納得(腹落ち)するよう」に説明してください

- あなたにとって「働く」とは何か
- あなたにとって「仕事」とは何か
- withコロナの社会において、ご自身の今後のキャリアビジョンくどのような職業人生を歩んでいこうと考えているのか

他大学の学生とのグループワークを中心に、

- 目的・目標の共有
- withコロナ社会の生き方、働き方
- リモートワークの意識、態度、マナー
- 自己紹介動画作成

学生自己紹介動画(1分)



企業紹介動画(3分)



**「Slack (ビジネスコミュニケーションツール)」にアップ
全員が全ての動画を視聴できる仕組み**

9月2日～10日の任意の3日間

※開始日は9月2日、3日、7日に限定

1日目
午前

全体で実施

1日目
午後

2日目
午前・午後

3日目
午前・午後

各社で就業実習
(Zoom等を活用)

3日目
午後

最終報告会

教職員も容易に参加でき様子を把握できた

- **同日に開始する企業、学生、教職員全員
合同で実施**
- **社員一人(10分)「働く」「仕事」「キャリア
ビジョン」について語る**
- **「フィードバックシート」で全員コメント**
- **Slackで全体で共有
(全員分を全員が閲覧可能)**

- 課題の成果発表に加え、
学生が「生き方」「働く」「仕事」について発表
- 教職員も参加しフィードバック

学生、社員が共に考える



学生にとっての「キャリア教育」
社員にとっての「キャリア形成」

- **各チームでの振り返り**
- **目的・目標、「働く」「仕事」「キャリアビジョン（生き方）」**
- **「リモートワーク」という働き方**
- **withコロナの社会の生き方、働き方**
- **今後の大学生活、進路選択**

- **できたこと(上手くいったこと)、
できなかったこと(上手くいかなかったこと)**
- **リモートならではの良い点、難しい点**
- **リモートによるコミュニケーション、課題遂行の
ポイント**
- **今後のインターンシップの実施内容・方向性**
- **採用とのつながり**
- **大学との関わり方**

分かったこと

**リモートインターンシップでも
ここまでできる**

**対面インターンシップ以上に
手間がかかり、準備が必要**

「リモートインターンシップで、結局、何がしたいのか？ 何のためにするのか？」

**大学、企業とも明確にし、きちんと共有し
学生にしっかりと伝える**

**その目的を達成するための内容を緻密に
作り上げる**

**改めて、対面インターンシップを
問い、考える**

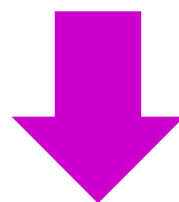
- ✓ 対面インターンシップとリモートインターンシップの教育的効果の相違点は何？
- ✓ 学生が獲得する能力、態度、意識等は何？
- ✓ 評価はどうする？

**検討すべき課題、解決すべき課題は
まだまだたくさんある**



これら課題にどのような解を出していくのか

**知恵を出し合い、工夫を凝らし、
一つひとつ取り組んでいくしかない**



その先には新たな可能性がある!!

詳細については、

youtube

「CIAC産学協働人材育成コンソーシアムchannel」

https://www.youtube.com/channel/UCyGlsAupCCG_xN9m0M_G5TQ

CIACホームページをご覧ください

<https://www.j-ciac.org/>